

選考試験 専門記述式問題（民俗学芸員（生涯学習概論））

次の文章を読んで、〔問題〕に解答しなさい。

平成30年12月21日、中央教育審議会は「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」を答申した。この答申において、「今後の地域における社会教育については、社会教育行政担当部局と首長部局、学校、NPO、企業等の多様な主体との連携・協働や幅広い専門性を有する人材の支援等の下、個人の主体的な学びを出発点とし、学びやその成果活用を通じた他者とのつながりの実感や積極的な地域活動への参画を経て、更なる学びを求める『学びと活動の循環』につなげていくことが重要である。」とされている。この点は、社会教育の実践の場である社会教育施設の在り方についても共通するものであり、博物館においても例外ではない。

博物館における「学びと活動の循環」を理解する上では、「地域博物館」の理念・考え方が参考になる。これは、1976年に開館した平塚市博物館（神奈川県）の学芸員らが提起したもので、のちに博物館学研究者の伊藤寿朗によって理論化され、博物館職員をはじめ社会教育関係者等に広く知られることとなった。地域博物館の考え方を端的に示すものとして、次のような文章がある。

著作権の関係により、掲載できません。

〔問題〕

中央教育審議会の答申や地域博物館の理念・考え方においては、住民の「参画」や「参加」などが重要な位置付けにあることから、これらは社会教育の振興方策における重要概念の一つであるといえる。ところが、実際には住民にとって活動への「動員」に終始し、主体的な「参画」や「参加」が実現していない取組みも少なくない。

こうした状況を踏まえ、博物館における「学びと活動の循環」につながる、住民の主体的な「参画」や「参加」の実現に必要な視点と学芸員の役割について、「地域課題」、「現実の追認」、「自己教育」、「信頼」の4つのキーワードを用いて、500～600字程度で論述しなさい。なお、各キーワードの初出箇所には下線を引いて示すこと。